千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第22週 (5/29-6/4) の発生は？

1 定点報告対象疾患（五類感染症）

報告のあった定点数		22週	21週	20週	19週
	小児科	18	18	18	18
	眼科	4	5	5	5
	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市 注意報	5/29-6/4 22週	5/22-5/28 21週	5/15-5/21 20週	5/8-5/14 19週	千葉県 5/22-5/28 21週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	1 0.06	1 0.06	4 0.22	11 0.08
	咽頭結膜熱		6 0.33	8 0.44	5 0.28	7 0.39	105 0.78
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	65 3.61	60 3.33	48 2.67	46 2.56	458 3.39
	感染性胃腸炎	↓	162 9.00	165 9.17	163 9.06	168 9.33	808 5.99
	水痘		12 0.67	10 0.56	7 0.39	8 0.44	75 0.56
	手足口病		14 0.78	20 1.11	10 0.56	2 0.11	66 0.49
	伝染性紅斑		1 0.06	1 0.06	0 0.00	0 0.00	14 0.10
	突発性発しん		18 1.00	19 1.06	21 1.17	29 1.61	73 0.54
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	ヘルパンギーナ		1 0.06	3 0.17	2 0.11	1 0.06	25 0.19
	流行性耳下腺炎	○	7 0.39	3 0.17	6 0.33	6 0.33	37 0.27
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）		6 0.21	3 0.11	18 0.64	36 1.29	113 0.53
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 1.00	5 1.00	5 1.00	9 1.80	35 1.00
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	2 2.00	0 0.00	0 0.00	9 1.00
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	7 0.78

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2 全数報告対象疾患（7件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	A型肝炎	女性	20歳代	血清IgM抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出
結核	女性	90歳代	病原体遺伝子の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	10歳未満	病原体の検出
A型肝炎	女性	20歳代	血清IgM抗体の検出	－	－	－	－

・第22週は、　結核3件（98）、A型肝炎2件（5）、侵襲性肺炎球菌感染症2件（17）の報告があった。
※ （）内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

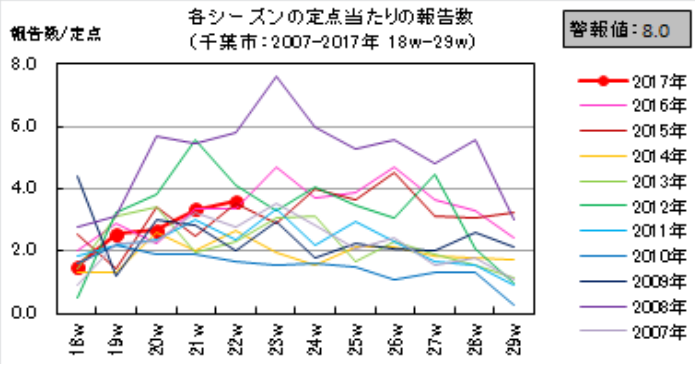
定点当たり報告数　第22週のコメント

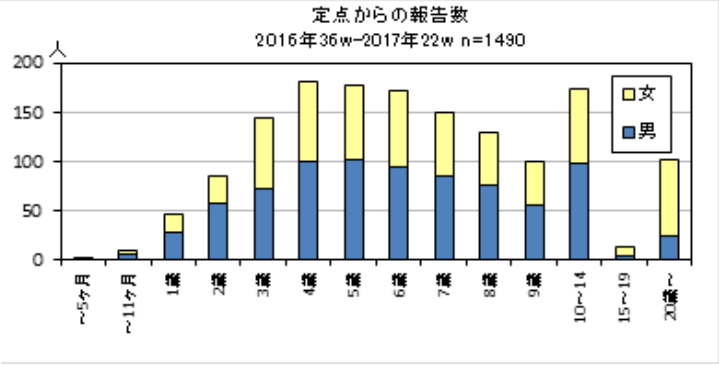
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.61となった。過去10年の同期と比べると多め。
＜感染性胃腸炎＞前週より下若干減少し9.00となった。過去10年の同期と比べると2007年と並んで最多。
＜流行性耳下腺炎＞前週より若干増加し0.39となった。過去10年の同期と比べると平均レベル。

■ トピック ■

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

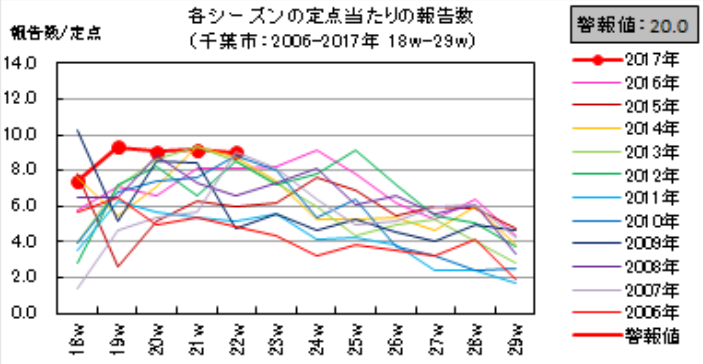
全国レベルの2017年第21週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、鳥取県、山形県、福岡県で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同レベルとなっています。千葉市の2017年第22週は前週より増加し3.61となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、若葉区（4.75/定点）で最も多く、同区の4歳及び5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から2017年第22週までの累積報告数（n=1490）によると、性別では男性が54.3%（809名）、女性が45.7%（681名）で、年齢階級別では4歳（12.2%：182名）、5歳（11.9%：177名）、10歳代前半（11.7%：175名）の順に多くなっています。

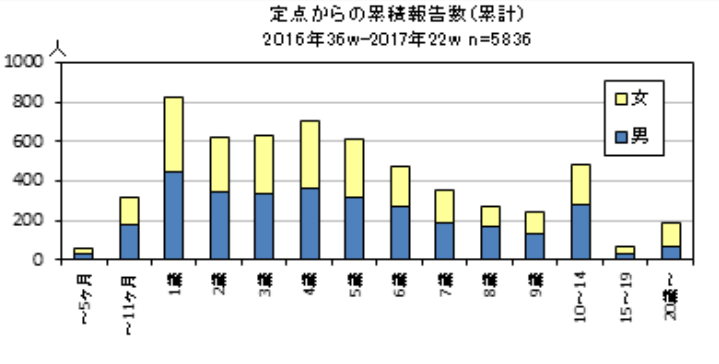


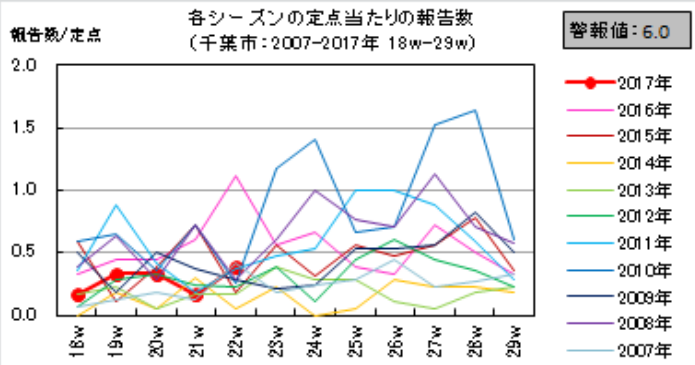
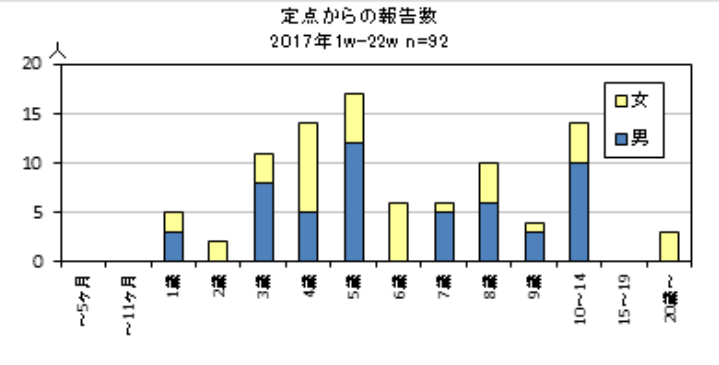


＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの2017年第21週は過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では富山県、福井県、大分県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2017年第22週は前週より若干減少し9.00となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区（25.5/定点）で再び流行発生警報開始基準値（20.0/定点）を上回り最も多く、同区の10歳代前半で最も多く一年代当たりでは2歳及び3歳で最も多く発生報告がありました。若葉区では一昨年から高い水準のまま推移しており、2017年は第16週から大幅に増加しています。今シーズンである2016年第36週から2017年第22週までの累積報告数（n=5836）によると、性別では男性が54.1%（3157名）、女性が45.9%（2679名）で、年齢階級別では1歳（14.2%：826名）、4歳（12.0%：701名）、3歳（10.8%：628名）の順に多くなっています。





＜流行性耳下腺炎＞

全国レベルの2017年第21週は過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では長野県、島根県、愛媛県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2017年第22週は前週より増加し0.39となり、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。区別の発生状況は、若葉区（1.0/定点）で最も多く、同区の10歳代前半で最も多く一年代当たりでは5歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第22週までの累積報告数（n=92）によると、性別では男性が56.5%（52名）、女性が43.5%（40名）で、年齢階級別では5歳（18.5%：17名）、4歳及び10歳代前半（共に15.2%：14名）の順に多くなっています。